**評価根拠を示す記入用紙**

「評価した理由、添付資料」の欄に、記入またはチェックをしてください。理由記入欄には、できるだけ具体的に内容を記述してください。

\*項目は、記入必須です。必ず理由を記入してください。

※項目は、添付が必須の資料です。  
□は必要な添付資料です。添付したものは■としてください。（資料を添付する場合には、記載されている資料の全部ではなく、根拠が確認できる部分の抜粋で構いません）

**1.　エネルギー／温暖化ガス**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価した理由、添付資料 |
| 【必須項目】 |  |
| ①省エネ基準のクリア | \*クリアしているとした理由： |
| ②エネルギー消費量の目標設定 | \*実績値：　　　　　（MJ/㎡年）  \*次年度目標値：　　　　　（MJ/㎡年） |
| ③モニタリングの実施 | \*モニタリングの実施内容： |
| ④運用管理体制の構築 | \*運用管理体制の概要：  （加点１）ビルオーナーと居住者やテナントが共同でエネルギー削減に取組んでいる場合にはその内容（集合住宅を除く）：  □運用管理体制図　※必須 |
| 【加点項目】 |  |
| 1.1エネルギー使用・排出原単位（計算値） | 下記のうち、添付する根拠資料を選択。  □省エネルギー計画書の写し  □一次エネルギー消費量計算書の写し  □東京都建築物環境配慮制度の環境計画書・取組評価書の写し  □その他のツールによる計算結果の写し（ツール名：　　　　　　　　　　　　）  □上記以外（統計平均値を用いる場合）※上記の何れの資料も得られない場合に限る。 |
| 1.2エネルギー使用・排出原単位（実績値） | □エネルギー消費量・上水消費量実績一覧表  □年間水道光熱費のデータ（物流施設の場合）  □実績値を踏まえた改修後の予測エネルギー消費量（改修評価の場合） |
| 1.3 省エネルギー（仕様評価） | □評価した対策の内容が確認できる資料（物流施設・集合住宅の場合） |
| 1.4自然エネルギー | □該当する設備の設計図書、設計計算書、実績データなど |

**2.　水**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価した理由、添付資料 |
| 【必須項目】 |  |
| ①水使用量の目標設定 | \*実績値：　　　　（L/㎡年）  \*次年度目標値　　　　（L/㎡年） |
| ②モニタリングの実施 | \*モニタリング内容：  □節水運営体制図　※必須 |
| 【加点項目】 |  |
| 2.1水使用量（計算値） | □水使用量算定ソフトによる結果（オフィス、店舗、改修の場合）　※必須  □衛生器具の仕様・吐水量に関する資料 |
| 2.2水使用量（仕様評価） | □評価した対策の内容が確認できる資料（物流施設、集合住宅の場合） |
| 2.3水使用量（実績値） | □エネルギー消費量・上水消費量実績一覧表（物流施設を除く）　※必須 |

**3．資源利用／安全**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価した理由、添付資料 |
| 【必須項目】　※以下①～③のいずれかを満たすこと |  |
| ①新耐震基準に適合していること（1981年基準以降の建物） | 竣工年： |
| ②構造体新指標Is値が0.6以上であること（1981年基準以前の建物で耐震改修を施しているもの） | □Is値が確認できる資料 |
| ③倒壊危険度指標If値が1.0以下であること（1981年基準以前の建物で耐震改修を施しているもの） | □If値が確認できる資料 |
| 【加点項目】 |  |
| **3.1高耐震・免震等** |  |
| 3.1.1耐震性 | レベル４、レベル５とする場合には、以下のいずれかの資料が必要  □耐震グレードが確認できる資料  □保有水平耐力の余裕度が確認できる資料  □時刻歴応答応答解析の結果を示す資料  □損傷制御設計が行われていることが確認できる資料（レベル５の場合） |
| 3.1.2免震・制震・制振性能 | レベル４、レベル５とする場合には、以下のいずれかの資料が必要  □制震装置、免震装置等の有無が確認できる資料 |
| **3.2再生材利用率他・廃棄物処理負荷抑制** |  |
| **3.2.1再生材利用率・地域材・木材利用** |  |
| ①躯体材料におけるリサイクル材の使用 | レベル4、５とする場合には、以下の資料が必要。（評価対象となるものについてはマニュアル参照）  □再生材利用（躯体材料）の採用シート（マニュアル参照）  □グリーン購入法特定調達品目であることが確認できる資料  □エコマーク認定商品であることが確認できる資料  □高炉セメントの使用が確認できる資料  □主要構造部における木材の使用が確認できる資料  □主要構造部における国産木材、地域材の使用が確認できる資料 |
| ②非構造材料におけるリサイクル材・地域材・木材の使用 | レベル３、４、５とする場合には、以下の資料が必要。（評価対象となるものについてはマニュアル参照）  □再生材利用（非構造材料）の採用シート（マニュアル参照）  □グリーン購入法特定調達品目であることが確認できる資料  □エコマーク認定商品であることが確認できる資料  □国産木材、地域材の使用が確認できる資料 |
| **3.2.2廃棄物処理負荷抑制** | □評価する取組みに○を付けた資料（店舗、集合住宅のみ）  評価する取組みのうち、評価した項目に対する説明を下記に具体的に記入してください。※レベル２以上必須~~（店舗、集合住宅のみ）~~  1)  2）  3）  4）  5）  6）  7）  8）  9）  10）  11） |
| **3.3躯体材料の耐用年数** | 築後経過年数：　　　　　　年  今後躯体が改修工事を受けるまでの想定耐用年数：　　　　年  レベル４、５とする場合には、以下のいずれかの資料が必要。  □劣化対策等級が確認できる資料  □躯体材料の想定耐用年数が確認できる資料（長期保全計画書など） |
| **3.4主要設備機器の更新必要間隔／設備の自給率向上／維持管理** | |
| 3.4.1主要設備機器の更新必要間隔 | 主要設備機器の更新周期が異なる場合、平均値の計算式：  □長期保全計画書など、設備毎の更新間隔が確認できる資料　※レベル２以上必須 |
| 3.4.2設備（電力等）の自給率向上 | □評価する取組みに○を付けた資料  評価する取組みのうち、評価した項目に対する説明を下記に具体的に記入してください。※レベル２以上必須  1)  2）  3）  4）  5） |
| 3.4.3維持管理 | □評価する取組みに○を付けた資料  下記のⅠまたはⅡのどちらで評価したかをチェックの上、評価した項目に対する説明を下記に具体的に記入してください。※レベル２以上必須  □Ⅰ　建築物衛生法による特定建築物  □Ⅱ　建築物衛生法による特定建築物に該当しない  1)  2）  3）  4）  5）  6）  7） |
| 3.4.4 バリアフリー計画 | レベル3以上とする場合には、以下のいずれかの資料が必要  □建築物移動等円滑化基準チェックリスト  □建築物移動等円滑化誘導基準チェックリスト  （チェックリストには、該当する取組みに○等を記入の上）  レベル5とする場合には、以下の資料が必要  □ユニバーサルなデザインであることが確認できる資料 |

**4.　生物多様性／敷地**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価した理由、添付資料 |
| 【必須項目】　※以下①～③について適切な対策が行われていること | |
| ①外来生物法の特定外来生物 | ①～③について、対応方策や管理方針について具体的に説明してください。  \*対応： |
| ②外来生物法の未判定外来生物 | \*対応： |
| ③生態系被害防止外来種 | \*対応： |
| 【加点項目】 |  |
| 4.1生物多様性の向上 |  |
| ①生物多様性に関する評価の実施、認証の取得 | レベル４、５とする場合には、以下のいずれかの資料が必要  □生物多様性評価の取組みを示す資料  □生物多様性評価の認証取得を示す資料（認証書など） |
| ②取組み表による評価 | レベル３以上とする場合には、以下のいずれかの資料が必要  □評価する取組みに○を付けた資料  評価する取組みのうち、評価した項目に対する説明を下記に具体的に記入してください。（①については、保全すべき自然資源が無いと判断した場合には、その根拠を説明）  ①  ②  ③  ④  ⑤  ①または④を評価した場合には、以下の資料が必要。  □①建設前の航空写真または住宅地図等  □④緑化計画図と緑化率の計算書 |
| **4.2土壌環境品質・ブラウンフィールド再生** | 対象外とする場合　理由：  □レベル４、５とする場合にはその対策の概要が確認できる資料 |
| **4.3公共交通機関の接近性** |  |
| 4.3.1公共交通機関の接近性 | レベル３、５とする場合  鉄道駅、バス停までの徒歩時間：　　　　　分  □鉄道駅、バス停までの道のりが確認できる地図 |
| 4.3.2交通結節点への接近性、敷地周辺への配慮 | レベル３以上とする場合（物流施設の場合）  □評価した項目の取り組み内容が確認できる資料  □交通結節点からの道なり距離が確認できる地図等（取組み3の場合） |
| **4.4自然災害リスク対策** | レベル２以上とする場合  □自然災害リスク対策の一覧表  □各リスクの有無が確認できる資料（ハザードマップの写しなど）  □対策を講じている場合には、その概要が確認できる資料 |

**5. 屋内環境**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価した理由、添付資料 |
| 【必須項目】　※以下①または②を満たすこと |  |
| ①建築物環境衛生管理基準の準拠 | □空気環境測定の概評（１年間分） |
| ②質問票による評価 | □衛生管理に関する質問票（記入済みのもの）  ※質問票は評価マニュアルを参照。 |
| 【加点項目】 **（オフィス・店舗・物流施設）** |  |
| **5.1昼光利用** |  |
| 5.1.1自然採光 | レベル３以上とする場合  開口率：　　　　％  □自然採光有効開口率の計算過程が確認できる資料（マニュアル参照） |
| 5.1.2昼光利用設備 | レベル４以上とする場合  □昼光利用設備の概要が確認できる資料 |
| **5.2自然換気性能** | レベル３以上とする場合  □自然換気有効開口率の計算過程が確認できる資料（オフィス、物流施設の場合）  □自然換気有効開口の位置やオープンモール、屋外テラスの位置図（店舗の場合） |
| **5.3眺望・視環境** | レベル３以上とする場合  □天井高と窓の状態が確認できる資料（断面図等） |
| **5.4改修による屋内環境向上** | □評価する取組みに○を付けた資料　（改修の場合のみ）  評価する取組みのうち、評価した項目に対する説明を下記に具体的に記入してください。  1)  2)  3)  4)  5)  6)  7)  8)  9)  10)  11)  12)  13)  14) |
| **【加点項目】 （集合住宅）** |  |
| **5.1 自然利用** |  |
| **5.1.1 昼光利用** |  |
| 5.1.1.1 自然採光 | 開口率：　　　　％  □自然採光有効開口率の計算過程が確認できる資料 |
| 5.1.1.2 昼光利用設備 | レベル3とする場合  □昼光利用設備の概要が確認できる資料 |
| **5.1.2通風・排熱** | □自然換気口(LD及び寝室)の設置状況が確認できる資料  □開口可能な窓（LD及び寝室の1室）の設置状況が確認できる資料  □対面通風、吹抜通風の利用状況が確認できる仕様 |
| **5.1.3眺望・ゆとり** | レベル2以上とする場合  □天井高と窓の状態が確認できる資料（断面図等）  □サッシの寸法が確認できる資料（建具表等） |

|  |  |
| --- | --- |
| **5.2 健康・快適** |  |
| 5.2.1 暑さ・寒さ | □外壁断熱、日射遮蔽装置、複層ガラスの設置状況が確認できる資料 |
| 5.2.2 主要な居室の冷房・暖房 | □冷暖房装置(LD)の設置状況が確認できる資料 |
| 5.2.3 化学汚染物質対策・適切換気 | □化学汚染物質を抑える建材の使用が確認できる資料 |
| 5.2.4 騒音・遮音 | □床材の軽量床衝撃音遮断性能、重量床衝撃音遮音性能が確認できる資料  □界壁の遮音等級が確認できる資料 |
| **5.3 防犯対策** | □エントランスのセキュリティシステムの設置と、ITVカメラ監視の状況が確認できる資料  □日中の常駐監視、夜間のセキュリティ会社への警報が確認できる資料 |

（別表）

**5. 屋内環境**

【必須項目】　②質問票による評価を行う場合には下記の回答欄に記入したものを添付してください。

衛生管理に関する質問票

|  |  |
| --- | --- |
| 質問 | 回答（記入欄） |
| 1-1.オフィスと店舗の外気導入は収容人数に対して20m3／時以上とし、適切に運転していますか  1-2.オフィスと店舗の換気のための必要な排気は行っていますか  1-3.空調機にフィルターは設置していますか  1-4.空調機のフィルターは定期的に清掃していますか |  |
| 2.温度は17℃以上28℃以下に管理していますか。 |  |
| 3.相対湿度は40％以上70％以下に管理していますか。 |  |
| 4.気流は0.5m/s以下に管理していますか。 |  |
| 5.ホルムアルデヒド発生を抑制するための内装材や家具の選定を行っていますか。 |  |
| 6.駐車場の換気は適切に行っていますか。 |  |
| 7.衛生基準を管理する人を定めていますか。 |  |